

第125号

月刊

על-פלי מים

流れのほとり

連絡先 〒807-8691 北九州市八幡南郵便局私書箱 26 号 本部 TEL&FAX 093(692)8592

所在地 〒807-0004 北九州市小倉北区鍛冶町 2-3-13 北九州 YMCA 内

HP <http://1985bible-school.com>

E-Mail hope_to_tomorrow.y@san.bbq.jp

神に用いられた人

理事長 山口 晶久

昨年の8月31日未明。日曜日でありました。私の小さな群れの聖日礼拝の説教準備をしていました。まとまらないものですから、聖書を読みながら瞑想し思いを馳せておりました。眠気に誘われ6時ごろになり少しまどろんでいました。しばらくして「主人が亡くなりました・・・」。突然の奥様の電話に、「えー・・・」。私は声がつまり身体が振るえました。なぜなら数日前にお会いする約束をしていましたものですから。森上先生が召された・・・。

1999年の一年間、学校は校長不在で、私が代行していました。どなたか信頼できる人に校長職をお願いできないものかと悩んでいました。その年の晩秋の11月頃であったと思います。「校長職の任を負っていただきたい。お断わりされたら、お引き受け下さるまで椅子に座り続けてお願いしよう」。そのような思いで先生にお会いしました。ご存知のように、柔和でお優しいお人柄にふれながら、学校の現状を打ち明けたのです。時折目を閉じ、私の話に耳を傾けて下

さいました。その後お聞きしたのですが、私の話をご自分の伝道生涯と重ね合わせたと。そして謙遜にも「十分なことは出来ないかも知れません。もし私で良かったらお引き受けします。」とご快諾下さったのです。

「人が人を得るということは難しいことです」。2005年5月から6年間校長職をお勤め下さいました。森上先生は、73年のご生涯を神様のため走り抜かれました。牧師、伝道者として円熟なさり、ご自分の教会のみならず地域や超教派の働きにも心砕かれる懐の深い先生でありました。私が「このような事を考えています」「いいですね。やってみましょう!」と。祈り、交わり、行動力においても傑出しておられた。

先生は、1941年4月3日熊本県菊池市の農家の5男としてお生まれになられた。1957年3月に中学校を卒業。同級生102人、家業の農家を継ぐ人以外は15人程度が高校に進学し他は都会に就職。先生は家庭の事情で進学をあきらめ、警察予備隊、保安隊、後に自衛隊と名前を変えましたが、少年自衛官に応募なさり見事合格なさった。同期には90名。14,5歳の少年が全国から集まったそうです。茨城県勝田市にある施設学校で4年間軍事訓練や建設機械整備技術教育を受けて、3年になり部隊は実習の



ために愛知県豊川、茨城県古川駐屯地に派遣されます。着任したのが1959年の伊勢湾台風来襲の時であったそうです。台風で家屋の崩壊などたくさんの被害が出で、諸部隊と共に救助活動をなさった。そんなある日、友人が「キリスト教会に自分も行くが君も来ないか」と誘われたそうです。生まれて初めて教会という所に出席なさった。そこは藤川牧師のアッセンブリー教団豊川教会でした。訪ねた若い自衛官を教会の方々が心から歓迎して下さいました。その歓迎に感激して、その日の内に聖書と聖歌を購入なさったということです。その後、毎週教会に通うようになられた。そして、部隊の異動もあり日本キリスト教団勝田教会飛田泰二牧師より、罪の悔い改めをし、イエス様を信じ洗礼を受けられました。

時折、森上先生が体調を崩されました時に車でご自宅までお送りすることがありました。先生の若き日のこと車の中でお聞きしました。21歳で牧師になるために自衛隊を退官し、神戸の関西聖書神学校に入学、そして学んだ。その後、50年近く伝道者生涯をひた走りに走り抜かれたと。1985年、北九州市の小倉の地に牧師として着任なさった。ちょうど学校が開校された年です。2度の心臓手術という大病、健康の面でもご苦労なさった。しかし、揺るがない伝道者としての歩み。森上先生を駆り立てたのはなぜか。それは先生自身を生かし守られた

神様の存在だと思います。先生がお元気であればこの辺のことをもう少し詳しくお聞きしたかったものです。

本誌「流れのほとり」に、以前このような文章を書いておられました。「信仰とは望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することです。実現したものを見るのは信仰ではありません。まだ実現しないことを確認する。これが私の信条です。若い時から、私は『開かれた所へ行く』ことをモットーとしました。今も変わりません。人はいろいろな苦悩を経験します。生育環境や人生経験はさまざまです。しかし、神様は間違いなく個々の人を大事になさいます。その人に応じてです。私もそのような経験をする者です」と。

開かれた所へ行くことをモットーとした。この言葉に、私は深く瞑想します。信仰生涯には大なり小なり、神様からのコーリング、呼び声があります。その呼び声に身を委ねる。森上先生は開かれた所へ従って行くと。神様のみ守りと共にいて下さらなければ、寄り頼む信仰がなければ出来ないことです。

もう20年以上も前に読んだ本に、アルゼンチン生まれの世界的伝道者ルイス・パラウという人のことを思い出しました。彼が英国のトーチ・ベアラーズの創立者が語るチャペルに出席した時のことです。伝道において苦悩と失意、そして行き詰まりの中に、彼が聴いたのは「私は美しい柴、教育のある雄弁な柴は必要としません。どんな古い柴であったとしても、私の業をすることが出来ます。私があなたを用います。あなたが、私のために何かをするのではありません。私があなたを通して何かをするのです。」「荒野の燃える柴は、ほとんどが発育の可能性のなかった乾いた小枝の固まりのような物です。しかし、モーセは靴を脱

がなければならなかった。なぜでしょう。そこが聖なる地であったからです。神がそこにおられるからです」。この短いメッセージはパラウ自身の心を突き刺さしました。今まで神のために何か出来ないかと考えて来た。しかし自分は、実に可能性のない乾いた小枝の固まり風が吹けば飛び去るような者である。私という柴の中に、神様がおられなかったらしてきた奉仕の全ては価値のないものであり、神様のみが、神の業をなさるのであると悟るのです。

後に、「想像できないほどの完全な解放感を味わった。私の長年の苦悩の探究の旅は終わった。もちろんキリストが私の内に生きて下さるようになるためには、取り扱わなければならない問題はまだ残っている。しかし、私は、神を神として、ただ神にのみ寄り頼んで生きることになりました」と。ルイス・パラウは、神が共にいて下さるのであれば価値のある存在となりえる。霊的苦闘の結果、そのように導かれるのです。

森上先生は病をおして伝道者としての生涯を走り抜かれました。先生が支えられ用いられたのはなぜか？そこに、神様が共におられたということだと思います。「あなたがたに神の言葉を語った指導者たちことを、思い出しなさい。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰に見倣いなさい。」とあります。先生は、救急車で運ばれる車の中でも「私はキリスト教の牧師です・・・」。救急隊員の方に語られたと。お葬儀の時に聞きしました。生涯の立つべき所はどこであるのか。神を神とし、神に寄り頼み生きる。森上先生は、この大切な信仰姿勢を、最後の最後まで自ら証なされたのです。

私の信仰生涯にとりまして、先生はかけがいの無い先生でした。けい咳に触れられた皆様もそうでありましょう。多くの事をご相談しましたし、お願いもされました。

信仰の交わりと信仰の故の優しさにご愛。私の中に生きています。終わりを見て信仰に倣う。森上先生は、与えられた馳せ場を走り抜かれました。その信仰が私たちにも聖書学校の働きの中にも生き続けることを感謝したいと思います。

神と共に生きる生涯は何と麗しいことでしょう。神の招きに従い罪赦された者として生かされている。今も私たちの罪のために十字架に付けられた主イエス様がおられ、そして私たちの内に働かれ、なすべきことに力を与えて下さる聖霊ご自身を崇める。このような叫びに似た信仰姿勢を呼び起こそうではありませんか。

(2014年11月7日追悼礼拝要約)

故森上洋介師 略歴

1941年4月3日 熊本県菊池市生まれる。

1951年 少年自衛隊学校入学

1960年12月25 日本アッセンブリー教
勝田教会飛田泰二牧師より受洗

1962年 関西聖書学校入学

1968年 同校卒業 日本地方伝道団日田
福音キリスト教会、佐伯福音キ
リスト教会に赴任

1969年10月10日 悦子師と結婚

1985年 日本イエス・キリスト教団小倉
教会（長行チャペル）赴任

2000年5月 北九州信徒聖書学校第2代
校長（～2006年）就任

2014年8月31日召天 享年73歳

この務めに預かること

校 長 野村 幸生

今は亡き森上洋介先生の後、本校の校長を引き継ぐことを、勧められたのは、2006年の2学期だったと思います。その時、私

は福岡市に住んでいるために、本校に貢献することが余りできないのですがと、山口先生にお返事申し上げました。先生は、そのことをご了承下さった上で、再度、私に校長職を勧めて下さいましたので、お引き受けすることに致しました。

山口先生とは、私がまだ、本校講師でも教師でもない時に、一度講義前のチャペルのメッセージを依頼された頃から交わりが始まりました。そして、本校に「専攻科」を開設するための準備委員会が発足し、私も加えていただいたことで、山口先生とさらに親密な交わりをさせていただくことになりました。

さて、森上先生が校長になられてからは、毎回の入学式の式辞で、本校について北九州という地域性、信徒のための学校、超教派という立場で多彩な講師から学べることを強調しておられました。さらに本校の運営と聖書信仰の立場を明確にするために、「教師会」を組織され、私も教師会の一員に加えていただきました。

森上先生が、協調して来られたことの中で、私自身がどうしてもいまだきちんと受け継ぐことが困難なことが、北九州という地域性です。福岡市に住んでいるために、その点本校の運営上に支障をきたしていることが多くありますこと心苦しく思っています。教師会の方々が、私の欠けているところを十分に補って下さっていることを心から感謝いたします。皆様に支えられ8年間、この務めに預かることができます。

(香住ヶ丘キリスト教会牧師)

神は愛です。一羽の雀も

森上 悦子牧師

2014年8月30日、次週の礼拝説教をマタイ伝10章16～33節から準備していた主

人が、誤嚥性肺炎で緊急入院となりました。その時、主人が次の日に召されるとは夢にも思いませんでした。

主人は、熊本県菊池市の小さな集落の貧しい農家に生まれました。その自然豊かな故郷が大好きでした。主人の父は普段はおとなしい働き者でしたが、いつたんお酒が入ると人が変わってしまい、母や家族を悲しませたとのことでした。18歳でクリスチャンとなった主人を見て母は、「洋介がキリストを信じ、お酒を飲まないという。私はそのことだけでクリスチャンになる」といって受洗しました。その母も最期は介護施設で「主にすぎる我に・・・」の讃美歌を常に歌っていて、「ハレルヤおばあちゃん」と呼ばれていたそうです。そのことを主人は大変喜んでいました。

主人は中学校卒業後、地元の高校に行かず、給料をもらいながら学べると陸上自衛隊施設学校に入学し、卒業後入隊しました。1959年伊勢湾台風の時、現地に行き、その様子を見た時に、なぜか教会に行きたいと思い、近くの教会に行きました。その後、部隊の移動もあり、1960年茨城県の日本基督教団勝田教会に飛田泰二牧師より受洗。その後も移動により教会は変わりましたが、やがて銃で国を守るより神のことばでと決心し、1962年自衛隊の退職金をもって関西聖書神学校に入学しました。途中、当時の舎監の向後先生の紹介で大分県の日本地方伝道団佐伯インマヌエル教会の代理牧師として2年間奉仕させていただき、また複学し、6年かけての神学校卒業となりました。

その後、同教会から献身していた私と結婚いたしました。1985年、日本イエス・キリスト教団に入会させていただき、4月から北九州市の小倉教会に遣わされました。

1988年3月に心筋梗塞、バイパス手術、その後、ペースメーカーを入れたいと、度々



入院治療をいたしました。今回は肺炎だけでなく、脳梗塞もおこしたので1ヶ月の入院後、リハビリテーション病院に転院しました。最初の頃は家族の名前も思い出せない状況でしたが、リハビリの効果もあり、外泊も許されるようになりました。8月第一聖日も外出を許され、聖餐式の御用もさせていただきました。そして8月21日に無事に退院いたしました。

早朝祈禱会にも出席し祈っておりますが、一週間後、容態が悪くなり救急車で病院に向かいました。救急車で酸素吸入を受けながら「私は教会の牧師で、18歳の時イエス・キリストを信じ・・・」と信仰の話をするので、私が「少し黙って静かにした方が良いのでは」と注意するほどでした。救急外来の医師が「よくこの肺の状況でここまでこられたのは奇跡みたいなものです」といわれ、病状が重篤なことを知りました。しかし、その日は心臓の主治医が「心臓もペースメーカーも大丈夫です」といわれ一時帰宅しました。その容態が悪くなり再度病院に行き、入院しました。でもその時も本人や私たち家族もやがて回復すると思っておりましたが、3日後の聖日早朝に召されました。突然の召天、現役なのになぜとの思いが湧いて来るのを抑えられませんでした。その後、主人が奉仕させていただいていた北九州信徒聖書学校で追悼礼拝を11月7日に持っていただきました。ヘブル

書13章7節を通して理事長の山口先生が主人を偲び、語って下さいました。その時モーセの燃える柴のところから語られました。山道に転がっている枯れた木切れ、家具にも薪にもならないような木くずにも神が働かれると柴はなくなり、燃え続けたのです。と語られました。出エジプト記3章2節、そのメッセージを聞いた時に、私は主人の人となり、生きざまその姿が見えました。主人は自分のことは衣食住他一切に無頓着でした。常に教会のため、神様のためにとの動機での行動でした。「信仰による義人は生きる」、ローマ書1章17節のみことばを頼りにし、絶えずみことばを宣べ伝えなさいの姿勢でした。人間的かも知れませんが、「もう少しうまくやれば得をするのに・・・」と、私は時々はがゆく思うこともありました。

名説教者でなく、聖徒らしく静かに穏やかなタイプでありませんでした。常に主のために何が良いかと考え行動する人でした。こうして共に働き、過ごした45年を思い巡らすと、主人は、誰よりも多く神様に赦され、よく多く愛された器だったと思います。神様の愛によって御近くに召して下さったと思うと安らぎます。神の前に一途に生き、神に多く赦され、最も多く愛された我が夫、牧師森上洋介に今、心から「シーユーアゲイン」と挨拶を送ります。

(聖書日課・月刊ベレカ2月号一部抜粋)

森上洋介先生の思い出

本科23期生 古賀 聡子

私が、森上先生に初めてお会いしたのは20年以上も前のことです。その時、私は主人とうまくいかず、子育てにも自信が持てず孤独と寂しさの渦の中を彷徨っていまし



故森上先生の小倉教会長行チャペル

た。そんな私を神様は、森上先生が牧会される、北九州市の長行にある小倉教会に招いて下さいました。初めてお会いする日、先生は教会の外で待っていて下さり、私の車を見つけるや否や駆け寄って来て下さいました。「よく来て下さいましたね。」と手を差し伸べながら、「何と人なつこい人だろ。それが私の最初の印象でした。」

それから先生との聖書の学びが始まりました。こんな罪だらけの私でも、愛して下さいる神様がいること、しかも今まで私が神様に背いて生きてきたことも全て、イエス様の血潮により赦して下さいることを分かりやすく丁寧に教えて下さいました。

その後も、娘が学校に行かなくなった時には、ミッションスクール折尾愛真学園の中等部を紹介していただき、娘は学校生活を取り戻しました。その娘が韓国のクリスチャン男性と結婚することになった時には、誰よりも喜んで下さって、韓国への思いを熱く語っておられた姿が懐かしく思い出されます。

今はきっと神様の傍らで、あの変わらぬ笑顔で私たちを見守って下さっていると思います。私が天国に行った時には、きっとまた最初にお会いした時のように見つけて駆け寄って来て下さい。森上先生、今まで

本当に有難うございました。

(2010年3月卒・日本イエスキリスト教団小倉教会員)

第8回ピスガ聖会

主題「伝道は隣人への愛である」。聖書「宣べ伝える人がいなくて、どうして聞くことができるでしょう」(ローマ書10章14節) 去る、2014年10月10日(金)会場、財団北九州YMCA及び10月12日(日)会場、日本イエスキリスト教団小倉教会長行チャペルで開催された。講師は韓国仁川桂川中央メソジスト教会(会員7000人)元老崔世雄牧師を迎えた。2007、2009、2012と2014年の本校の聖会に4度来日なされる。以前より故森上先生と小倉教会で、本校の聖会を開催するが約束されていた。先生不在の聖会となり寂しさを覚えたが、ご婦人森上悦子牧師、金度完牧師、教会員の皆様のご協力の中で恵まれた聖会が持たれた。

宣教ホームピスガ

第1期工事完了感謝礼拝

2014年10月26日(日)午後2時30分より、感謝礼拝が捧げられた。司会野の花クリスチャンチャーチ上島信弥牧師、奏楽日本バプテスト連盟豊前伝道所進康子姉、讃美歌332、聖書祈禱ピリピ書2章12～16節、ウエスレアン・ホーリネス教団戸畑高峰教会塩屋弘牧師、説教「神のなさる業」北九州信徒聖書学校校長野村幸生牧師(香住ヶ丘福音教会)挨拶設置代表者北九州信徒聖書学校山口晶久理事長、祝辞小袋光子姉、頌栄541、祝祷塩屋弘牧師、後奏。35名の兄弟が集った。

編集後記

本校の使命と働きに寄せられますご支援に深い感謝を申し上げます。

宣教ホームピスガ建設に寄せて

導かれ祈りに支えられて進む

春暖の候 貴地におかれましてご健勝にてお過ごしのこと心よりお慶び申し上げます。今年、本校は創立30周年を迎えました。「福音宣教の一端を担う」、福音主義に立つ恒久的信徒聖書学校として、誠に小さな働きですが、今日まで継続されてきましたのは、神様のお恵みと皆様方のご支援とご加禱の故と深い感謝を申し上げます。

1985年、創立当時に福音宣教のために3つの素朴な祈りがなされました。第1は「聖書学校の設立」、第2は「海外宣教」、第3は「宣教ホームピスガ建設」でした。毎月第1金曜日、この素朴な祈りの実現のために本校関係者及び同窓会幹事の皆様と共に祈り続けてまいりました。

特に、2000年5月「宣教ホームピスガ建設の祈り」は、4名の方々と始められました。2003年、学校創立20周年記念事業として建設用地取得募金が始まりました。2011年12月、JR 鹿児島本線水巻駅から徒歩2分利便性環境良好の土地598,60㎡を購入することが出来ました。昨年2014年、祈りから14年目入り建設施工が現実となり、この度の事業は、神様から私共に託された使命であることは確信し、信仰をもって建設の着手が決断されました。3月建設定礎式。4月福岡県より許可が下り建設工事開始。そして、10月に関係者が集い第1期建設工事完了感謝礼拝を捧げました。

何もない所から、ただ神様の憐みとみ言葉の真実を堅く信じ今日までまいりました。思い返しますと、宣教ホーム建設を心待ちにし、このために祈り捧げられましたが建設を見ず、すでに天上に逝かれた梶山綾子様、菅原寅夫様、青木順之助様、岡 昭雄様、米国の栗原三郎様。また昨年3月建設定礎式にお元気なお姿でご出席下さいました本校2代校長森上洋介先生。皆様の信仰によるご愛と献身的なお働きを想起します。

まだ建設途上で必要な建設資金が充たされている状況ではありませんが、昨年第1期建設工事まで導かれましたことに深い感謝を覚えます。引き続き、皆様の日々のお祈りに加

えて下さりご支援を賜りますなら幸いです。

2015年4月

北九州信徒聖書学校

理事長 山口晶久

校長 野村幸生



1. 設置の概要

- (1) 趣 旨 神への敬虔な思いを持って、一人ひとりに謙虚に仕える生活共同体を実現する多目的建物（家）を目指す。
- (2) 目 的 一人暮らしや夫婦暮らしの方で、家庭環境や住宅事情等で、その生活が不安な 60 歳以上の方に入居していただき、利用者の自立を尊重し明るく健康な家庭生活の場を提供する。

2. 第 1 期工事概要

- (1) 名 称 宣教ホームピスガ 設置代表者 山口 晶久
- (2) 建設地 福岡県遠賀郡水巻町頃末南 3 丁目 4 8 - 1 土地面積 598.60 m² (181.07 坪)
- (3) 建 物 木造平屋 第 1 期工事施工面積 121.75 m² (36.84 坪)
①床面積 89.25 m² (27.00 坪) + ②吹き抜け面積 32.50 m² (9.84 坪)
多目的室 (礼拝堂・集会所)・祈祷室、管理室 (居住生活空間 1 名)、
トイレ、洗面脱衣室、浴室等
- (4) 設 計 株式会社夢企画 北九州市小倉北区足原 1 - 1 3 - 2
- (5) 施 工 株式会社コモリ建設 北九州市八幡西区熊西 1 - 1 2 - 1

3. 資金計画 (概算)

◎収 入

- (1) 献 金 1,100 万円
- (2) 募金額 900 万円
- (3) ピスガ建設債 2,500 万円
- 計 4,500 万円

◎支 出

- (1) 土地購入諸費 1,862 万円
- (2) 基礎工事・建築費 2,367 万円
- (3) 設計・監理費 150 万円
- (4) 諸経・備品費 121 万円

計 4,500 万円

4. 募 金 額 900 万円

期 間 2014 年 7 月 ~ 2017 年 6 月 (3 年間)

送金方法 北九州信徒聖書学校「宣教ホームピスガ建設」
郵便振替 福岡 01750-4-29786

5. 完成予定図

← 第 2 期工事 + 第 1 期工事 →

